

業務部速報

No. 107

発行 17. 5. 12

JR東労組 業務部

申1号 第32回定期大会発言に基づく申し入れ 第2回

第4項 川崎駅構内列車脱線事故に伴う二重安全措置の導入については、必要な機材が全ての職場・パートナー会社に配備され、実設備を使用した教育及び不具合の洗い出しと対策が完了するまで、ルール運用を一時中止すること。

組合・線路に関係する作業において、一番安全な状態はどういう状況か。二重安全措置自体を否定しないが、準備不足でスタートしている。設備の配備、教育、他システムへの調整や情報共有は今後もしっかりと行うべきだ。

会社・列車の運行が無い状態で作業することが一番安全である。

・必要な機材は2017年度中に配備を完了する。パートナー会社など使用頻度の高い箇所に優先配備した。安全に資するものは早くスタートさせたかった。

組合・結果として混乱を招いているし、不具合や事象も増えている。

・ルールが複雑になっている。ルールと機器を整備するべきだ。

会社・ルールの追加だけでなく棚卸しもしていく。設備的な不具合は現場の声に基づいて解消していく。結果的に列車を止めも問題は無い。安定輸送よりも安全を優先してほしい。 **安全を最優先させることを確認！**

第5項 設備管理システム及び図面類と、現地設備の整合性を高めること。また、この精度の維持・向上のための要員を専任化すること。

会社・設備管理システムは、完成形となるのは難しい。データの蓄積が大切だ。

・システムは設備管理の重要な柱であり、教育を行い全員のレベルアップを図っていきたい。現段階で、システム担当を専任にする計画はない。システム担当を専任する必要は一致できず

組合・各システムのシステムは、単純な使いやすさではなくデータの精度が問題だ。だから活用できていない。

・CADオペレータの配置状況はどうなっているのか。**システム精度向上の必要性は認識一致！**

会社・オペレータは4月末で配置を完了している。引き続き精度向上に取り組む。

第6項 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の目標達成に向け、女性用設備の整備計画を明らかにすること。また、設備整備にかかわる予算を明らかにすること。

会社・乗務員の女性宿泊設備不足によって、行路の調整が発生している事は認識している。直近では北上で5床増やしたと聞いている。

組合・女性採用を増やしていく事は会社が発表している。整備計画も具体的に示してくべきだ。平成21年の議事録確認に基づいて整備を進めるべきだ。

会社・議事録確認に則る。指摘は受け止める。女性の配置は各支社で検討していくことなので、今後も実態の把握はしていく。

第7項 駅遠隔操作システムの導入については、安全とサービス品質が低下していることから、検証を行い、見直しを行うこと。

組合・MVについて、システムに接続していないが稼働させている。その認識は？

・2014年から導入したが、安全とサービスが低下している認識だ。顧客満足度が2014年から大きく低下しているが、システム導入と関係あるのではないか？

会社・システム導入当初MVは稼働させないとしてきたが、導入から3年経ち、MVを稼働させた方が良くして稼働させている支社もある。支社に任せている。

・満足度と直接的な関係は分からない。大きな影響が出ていると思っていない。